

68. 主に関西地方における和服に関する実態調査

(第2報)

京都女子大 畑中 玲子

横超 秀子

現在の衣生活は、なお、和服、洋服の二重生活が続けられているが、本研究では和服を対象とし、われわれのたどってきた和服に対する現在を把握するとともに、さらに将来における和服への関心を知る目的で、被服の購入、保持、使用状況などを調査した。調査は調査用紙(2000枚を配布)により、関西地区の大学、短大、その他の学生およびその家庭の主婦を対象とし、最近の現状を知るため昭和32、33年度について調べた。この結果の一部はすでに第1報として報告した。

第2報においては、第1報に引き続き、和服を長着と羽織に分けて季節による着用状況、作業に対する利用度についての調査結果を報告し、さらに最近着用されだした合成繊維の和服を着用した場合の主観的な良否を、絹和服のそれと比較した調査について考察し、消費者側からみた新しい着物に対する評価を検討した。